

名前： スズキ トモ (オックスフォード大学博士・元主任教授)

所属：早稲田大学 商学学院教授

【プロフィール】

公認会計士第三次試験合格。大手監査法人にて監査や上場準備を経て、ロンドン大学 (LSE) にて「社会科学哲学 (修士号)」、オックスフォード大学にて「会計・経済の哲学 (博士号)」を取得。そのままオックスフォード大学主任教授 (サステナビリティ・マネジメントと会計学) まで務め、幾多の Best Professor 賞を受賞。初期のトップ・ジャーナルにおける経済・会計哲学・理論・歴史の単独執筆を経て、応用研究へシフト。国連等の国際機関、エリザベス女王 (Queen's Office)、チャールズ皇太子 (Accounting for Sustainability Foundation)、中国、インド、東南アジア、英国、フランス、日本政府との協働により多くのポリシー・ペーパーを上梓。日本では 2012 年に IFRS の強制適用の可否を検討した『オックスフォード・レポート』を金融庁に上梓。インドでは 2013 年に「一行ライン CSR」革命 (企業法 135 条) の成立に貢献。在英 20 年後、特殊疾病治療のために帰国、早稲田大学にて復職。2021 年 3 月『関経連レポート：成熟経済・社会の持続可能な発展のためのディスクロージャー・企業統治・市場に関する研究調査報告書 <四半期毎の開示制度の批判的検討を契機とする>』(315 頁) を上梓。同レポートを基礎に岸田政権における「四半期開示制度や自己株買いの見直し」、「三方良し経営推進」、「付加価値の適正分配による好循環」などの政策を推進。2022 年 2 月に日経新聞『経済教室』「分配強化へ開示制度改革を」を、同年 7 月に『新しい資本主義のアカウンティング：「利益」に囚われた成熟経済社会のアポリア』(中央経済社) を公刊。2023 年 12 月まで上野みちこ総理大臣補佐官の顧問を務め、働く者の Well-being の改善と成熟経済社会の持続的発展に尽力している。



『新しい資本主義のアカウンティング：
利益に囚われた成熟経済社会のアポリア』



公共政策実現のため、
印税や原稿料を頂いて
おりません。

丁寧に書かれております。

スズキ トモ (著)
★★★★☆ 4.6 32 件の口コミ
単行本
¥3,080
獲得ポイント: 112pt
¥1,985 より 18 中古品
¥3,080 より 13 新品
¥6,150 より 1 コレクター限定



貴企業における理解の深化のためにご購入いただき、
セミナー等の開催をお勧めします。

www.amazon.co.jp/dp/450243731X

「失われた 30 年」と称される日本経済で、過去 20 年、実は企業のエクイティファイナンスは減少し、利益や株主還元は急増している。「会社は株主のもの」との理解の下、株主還元で資本効率性を求める観点からは、コーポレート・ガバナンス・コード（CG コード）に準拠した好ましい経営が推進されていると解釈することは可能である。しかし役員や従業員や企業そのものに対する付加価値の分配が抑制され、日本の経営・経済の持続的発展が棄損されかねないレベルで過度な株主還元が追求されているのであれば、成熟経済化の深化する日本では英米とは異なる CG コードが求められる。岸田政権の『新しい資本主義』はそうした「付加価値の適正分配」を含意していたが、株主を含む主要ステークホルダーの要求を満たす制度として発展しうるか解説・検討する。